

平成 21 年 5 月 22 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18510236

研究課題名（和文） 女性医師における，高い早期離職率に関する実像調査

研究課題名（英文） Enquete Study of the High Percentage of Female Physicians who Quit at an Early Stage

研究代表者

泉 美貴（IZUMI MIKI）

東京医科大学・医学部・准教授

研究者番号：30228655

研究成果の概要：

本邦では，多くの女性医師が早期に離職しており，昨今の医師不足の一因である可能性があるが，その詳細なデータは存在しなかった．本調査は2校の私立医科大学を卒業した女性医師全員に郵送法によるアンケート調査を実施した．離職を経験したことのある女性医師は73%に達し，その85%が卒後10年以内に離職していた．原因は，妊娠・出産との両立の困難な労働環境であった．一方，常勤の女性医師で，助手以上の役職に就いている医師は，12.4%，教授は1人もいなかった．女性医師が継続的な就労を可能とする労働環境の整備が急務であると考えられた．

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,700,000	0	1,700,000
2007年度	1,400,000	0	1,400,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,700,000	180,000	3,880,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー

キーワード：(1)女性医師 (2)離職 (3)医師不足 (4)男女共同参画

1. 研究開始当初の背景

医師不足が深刻になるにつれ、女性医師が早期に離職することが問題視されはじめていた。しかし、いつ、何割が、なぜ辞めているのかという実態を、根本的につきとめた研究調査は存在していなかった。

2. 研究の目的

女性医師の離職を防ぐために、まず離職の現状を正しく把握し、その理由、時期、復職などの実像および問題点を把握する。

3. 研究の方法

(1) アンケート作成・郵送：東京医大：609人，川崎医大：832人

(2) アンケート回収：有効回答711人，返送率50.0%

(3) アンケートの解析：質問項目毎に，2大学での差，年代別の差および離職の有無による差を比較した。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

全体で54.9%が離職を経験していた。

離職者の85%が最初の10年間に離職していた。

引退までの「生涯離職率」に相当する59歳までには，離職率は73%に上った。

離職の原因：1. 妊娠・出産との両立が困難，2. 子育てとの両立が困難，3. 勤務環境の悪さ

離婚時の勤め先：大学病院が圧倒的に多い，「常勤医」との比較：職時に就労時間が長く、当直回数が多い

離職率の差：子どもなし22%，子供あり77%

離職者の過半数以上は学位や博士号がない。

離職者の科：内科，皮膚科，眼科，小児科などであった。

復職離職：33%であった。

配偶者：85%は配偶者が医師。

配偶者の家事時間：42%は0分

離職者の72%が結婚や出産に拘わらず仕事を続けるべきと考えていた。

常勤の女性医師で，助手以上の役職に就いている医師は，12.4%，教授は1人もいなかった

(2) 国内外における位置づけとインパクト以上の解析結果から，現状の離職を防ぐには最初の10年間にサポートすることが重要で，キャリアの初期に研鑽を積むことにより，女性医師が大学医学部での重要なポストにつくためのスタートラインに初めてつくことができると考えた。この成果は，国内外の学会などで発表するとともに雑誌および新聞などに広く取り上げられ，驚きを持って扱われた。特に医療関係者以外や先進諸外国の人にとっては，本邦が国として早急に改善させるべき重要な問題点として捉えられた。

(3) 今後の展望

本調査は，女性医師の離職の割合や時期について研究した初めてのデータである。この研究を遂行した3年間の間にも医師不足の深刻さに歯止めはかかっているもの，女性医師を取り巻く労働環境の改善の必要性が様々なレベルで話題に取り上げられるようになってきた。

本調査は，私立医科大学2校に限局したものだが，全国レベルの調査がなされることが期待される。

また，女性医師の離職というテーマが単一の問題ではなく，医師全体ひいては日本社会全体を包含する労働環境問題の一つの象徴で

あることを理解し、今後は男女を通じたより広範な角度から、医師を取り巻く労働環境を再考する必要があると考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

泉美貴，女性医師はなぜ辞めるのか，
こころの科学，査読無，141，2008，
94-100

〔学会発表〕(計 4 件)

(1)泉美貴，女性医師の離職に関する実態調査:離職率73%，第40回日本医学教育学会大会，2008.7.25～26,東京

(2)泉美貴，医師になるということ，病理医になるということを考える，日本病理学会第9回病理学夏の学校，2008.8.21～23,岡山

(3) Miki Izumi, Yuko Higaki.

Professional apoptosis: 73% of Japanese female doctors quit their career, 3rd International Congress of Gender Medicine, 2008.9.12-14, ストックホルム

(4) Y. Higaki, I. Watanabe, M. Izumi, Mental health problems and quality of life of female medical students in Japan, 3rd International Congress of Gender Medicine, 2008.9.12-14, ストックホルム

〔その他〕

(1)泉美貴，女性医師として生きる，ジャミックジャーナル，27:58-59,2007.

(2)泉美貴，子供を産む女性医師が昇進できないのは平等か？，日医ニュース，1101号，2007.

6. 研究組織

(1)研究代表者

泉美貴 (IZUMI MIKI)

東京医科大学・医学部・准教授
30228655

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

檜垣祐子 (HIGAKI YUKO)

東京女子医科大学・医学部・教授
80189745

